

甲状腺機能異常 竜骨で神経系鎮静

Q 二十一歳、女性。健康診断で甲状腺せん機能亢

進症との診断を受け薬をもらいました。数カ月たち、甲状腺（せん）ホルモンの数値は正常になりましたが、肝機能障害の副作用が出たため薬は中止になりました。最近の検査でまた機能亢進の傾向とのことです。

A 若い女性に意外に多いのが甲状腺の機能異常である。首筋のはれや、のどのつまる感じや、食欲亢進にもかかわらず体重が極端に減少したり、動悸（どうき）、息切れ、体の熱感、手のひらなどの異常発汗、眼球の突出など、様々な症状が現れる。軽度の亢進の場合は、質問者のように自分では異常に全く気づかず健康診断など

で指摘されることが多い。

甲状腺機能亢進症は西洋薬によく効くものがある。しかし質問者のように肝機能障害や白血球減少などの副作用が起こる場合や甲状腺ホルモン値は正常化しても症状が軽快しない場合は治療が難しい。

漢方では症状・兆候に応じて薬が出される。イライラ感や心悸亢進、不眠、焦燥感などが強い場合は、柴胡加竜骨牡蛎湯（さいこかりゅうこつぼれいとう）や桂枝加竜骨牡蛎湯（けいしかりゅうこつぼれいとう）のように、竜骨（大型ほ乳類の骨の化石）や牡蛎（かき）の殻に交感神経系の鎮静作用があるため、好んで用いられる。不整脈や便秘などには炙甘草湯（しゃかんそうとう）がよく用いられる。